

No. 783

今週の焦点

# 「収拾への苦惱」

359A

—東京大学—

ドロ沼状態のまま新年を迎えた東大は入試復活へ最後の望みをかけ、加藤総長代行は積極的な活動を開始しました。

しかし、1月10日の七学部集会の前夜、東大構内で日共系学生と反日共系学生が激突、再度機動隊の導入となりました。

その結果、東京・青山の秩父宮ラグビー場で開かれた七学部集会は機動隊に守られたものものしいものとなりました。

学生同志がにらみ合う東大は連日の衝突で廃墟同然、東大当局は事態をこのまま収拾するのか、勇断をもって改革に当るのか、15日のタイム・リミットを前に大きな岐路に立たされました。

# 剣岳で“大量遭難”

—富山—

240A

150人の登山者を雪に閉じこめた北アルプス剣岳。すでに発見された遺体6、絶命9、行方不明3。

暖冬からいきなり厳寒へと急変した気象はすさまじいふぶきを呼び、パーティーの動きを封じてしまった。

しかし、冬の剣岳ではこうした気象は当然予想されるものだ。今回の大量遭難も冬山を甘く見た登山者があまりにも多かったといえよう。